「大飯発電所における被ばく低減の取り組み」

関西電力 中村 晃 氏



大飯発電所は 2010 年までにベストな原子力発電所になるため、2010 年ビジョンを設定した。3 つの方策を立て、その各々について目標を設定した。目標の 1 つが 1.4 人・Sv/year への被ばく低減である。大飯発電所の被ばく線量はほぼ我国の平均レベルにあるが、近年は横這い傾向にある。目標設定に当たってベルギーを参考とした。ベルギーは着実に被ばく線量を低減しており、ベルギーのドエル原子力発電所は WANO イン

デクスのトップ 5 を達成した。大飯発電所はドエル原子力発電所と同じ 1.4 人・Sv/year を線量目標とした。

定検線量の分析の結果、検査関連線量の約 40%が RCP (Reactor Coolant Pump) 検査であった。そこで、RCP 点検作業を更に分析した結果、約 90%が予備インターナルの組立て及びインターナルの分解・点検作業の線量であった。大飯 3、4 号機の RCP 分解・点検作業線量は我国 PWR 平均の約 2 倍で、他の発電所に比べてクラッドが付着しやすい、付着したクラッドが取れにくいと推定された。そこで、RCP 点検作業線量低減のため、関電の放管、検査請負企業を始め、RCP 点検の全ての面をカバーする構成員からなるワーキンググループを組織した。RCP 点検作業を含む 50 人の作業員に質問状を送り、回答から特性要因図を作成して、被ばく低減対策の候補を作成した。対策候補から線量低減効果、費用対効果を考慮して最も効果的なものを選択した。策定した被ばく低減対策は次の通りである。

- 1) 除染タンクへの超音波洗浄器の導入 予想低減線量 32 人・mSv
- 2) RCP 検査室の遮へい強化 予想低減線量 17人・mSv
- 3) インペラ遮へいボックス インペラは最も汚染された部品であり、検査時間も最も長い。鉛マット遮へいボック スの導入により遮へいを外さずに作業可能となる。予想低減線量 15 人・mSv (1/7)。
- 4) インターナル昇降機の改良 本改良により、作業員は線量率の低いインターナル上部から昇降機の据付・取外し作 業が可能となる。予想低減線量 9人・mSv。
- 5) 電動ツールの導入 インペラをローターから取外す作業はマニュアルで行われているが、この作業を自動 化する電動ツールを導入して作業時間を短縮する。予想低減線量 3 人・mSv。
- 6) 訓練の強化

経験の少ない作業員に対する訓練にビデオ教材を導入する。予想低減線量4人・mSv。

以上の被ばく低減対策は 2008 年に導入予定で評価は未実施であるが、6 対策の総計で 82 人・Sv の被ばく低減が期待できる。対策実施後、効果を検証し、PDCA サイクルを回して更に被ばく低減を図っていく予定である。





